

1 a 編成
b 損
c 着目

2 「無駄なく
3 III ↓ II ↓ IV ↓ I
(完答)

4 人間関係
5 (記述題)
6 せっかゝ考え方
(完答)

7 A ば B 外 C も
8 イ
9 ア・エ
(順不同)

2 1 a 様相
b 野心
c 好機

2 A し B 舌 C こ
D 見 3 I 遠野に描い

3 II 画力 4 ウ
5 (記述題) 6 (記述題)

7 しかし母は 8 I 絵 Ⅱ プ Ⅲ 遠 Ⅳ 感
(完答)

9 理解者 10 が温かい。

1 物的に豊かになり誰か何かを共
有する機会が減ったと同時に個人
を尊重する思想が広がった状態。

(同意可)

2 二人で漫画家になるという話はな
かった。たことにしてほしいうこ

(同意可)

6 遠野から怒りや悲しみをぶつけられると思ってい
たが、心からの祝福を受けたことで、遠野が同志
ではなかったことがわかり失望したから。

(同意可)

	「配点」
1	1
5	7
2	2
5	1
6	2
各4点×14	各2点×13
56点	18点
56点	26点

- 1 ① a 「編成」は個々の物を組み立てて一つのまとまったものにする。b 「損」の右下部分は「月」ではなく「貝」である。c 「着目」は重要なものとして目をつけること。
- 2 まず、――線①の一文の冒頭に「他方で」とあるので、ここよりあとに「合理的な考え方」とはどういったものかの説明があるだろうと見当をつける。――線①の一文が次の段落で「選択の幅が広がる↓それほど意識せずとも自分にとって最も好ましいと考えられるものを選ぶ」と言いかえられており、さらにその次の段落で「したがって：」と言いかえられている。
- 3 ①が「現在の状況」、②が「昔から現在への変化」、③が「昔の状況」、④が「現在の状況」を述べており、①の前の段落が「昔の状況」について述べていることから、まずは③↓②となることがわかる。そのあとの①と④の順序については、①の最後の一文が②の後半・④・①の前半をまとめている内容であることから、④↓①となる。
- 4 ここまでは「お菓子」や「テレビ番組(動画)」をはじめとする物の選択・決定について述べられていたが、②を含まない一文からどのような話題に変わったかを考えよう。②の直後の一文から「つき合う人」の選択について述べられている。
- 5 ③は、直前の二段落の「(物的に)豊かになると：誰かと何かを共有する機会も少なくなつた」と「それと同時に、個人を尊重する思想が広がった」の並列をまとめた表現である。
- 6 「ここではどのような考え方」かを聞かれているので、「どのような人とつき合うか、どういった集団とどのくらい関わるか」を選ぶ時の「合理的な考え方」を答える必要がある。「合理的な考え方」とはどういったものかは問2にもあるように「『無駄なく効率的に』という発想」である。これを「人づきあい」にあてはめつつさがす。
- 7 A 「はばからない」は遠慮しないという意味。B 「想定外」は事前に予想した範囲を越えていること。直前の一文に「：想定できればよいのですが：不可能でしょう」とあるのでここは「想定外」となる。C 「もろさ」は崩れやすさ、弱さ。
- 8 アンケートの回答項目と、直後の「ところが実際に調査をすると：目的や利点がなければ人とはつき合わないと考えている人の方が多し」から、⑤には「目的や利点がなくても、人とのつき合いは不可欠だ」と考える人の方が多い、という内容がはいらるだろうと見当がつく。ウの「目的や利点と人づきあいの関連性を重視している人」というのは言いかえれば「目的や利点がない人とつき合わない人」のことである。
- 9 「合理的な考え方」に隠されている「落とし穴」について述べている。――線⑥の一文の直後の「第一に、合理的な発想は自らも『コスト』として斥けられるリスクをはらんでいます」からの内容、その十二行後の「第二に、さまざまな可能性を見落とす恐れがあります」からの内容の、並列関係の二つを答える。A・Eともに本文中の表現がそれほど用いられていないが、第一・第二ともに要旨がつかめていれば選べるだろう。本文中の表現を使っているという理由だけで安易にイ・ウに飛びつかないこと。イは「人間的な魅力を失ってしまった」が誤り。ウは、悪いことではない「合理的な考え方」に隠されている「落とし穴」ではなく、「合理的な考え方」が広まっている社会が抱えている課題である。

1 ② a 「様相」は物事のありさま、様子。b 「野心」はひそかに抱いている大きな望み。c 「好機」は絶好の機会、チャンス。

2 A 「よしんば」は仮にそうであったとしてもという意味。B 「舌を巻く」は驚きおそれ、あるいは感嘆してことばも出ないこと。C 「こぎつける」は努力して目標に到達させること。D 「夢見心地」は夢を見ているようなくつとりとした気持ち。「夢心地」とも言う。

3 I ①の直前の遠野と「私」のやりとりから、「遠野のための物語」は私が話を作って遠野に絵を書いてもらうものであることがわかる。

II ⑥の文の「私の漫画を遠野が書き直したのを見た際」は(6-3)枚目の冒頭であり、そこから読み進めていくと「遠野の繊細なタッチの絵」「絵が変わるだけで、こんなにも印象が変わるのか。当たり前のことだけれど衝撃だった」「どうかなあと言われたところで、答えは決まっている。最高だった」とあるので、遠野の描く「絵」のすばらしさに衝撃を受けたからだと思われる。「絵」のすばらしさを二字で表している表現をさがそう。

4 ②の二行前の「そうだ、遠野にはちゃんと言わなければ」から、遠野は受賞を伝えるべき相手であると「私」が認識していることが読み取れる。テーブルの上の一番のクライマックスの部分を書かれた「遠野に渡す用の書きかけのネーム」を見ながらそう思っていることから、二人で漫画家の夢に向かって楽しく漫画を描いていたことに思いをいたらせていることがわかる。そういった共同作業から抜け駆けする形になってしまっているのである。

5 「つまり」どういうことか、と聞かれているので、直後の「連載ともなれば他の漫画に割く時間はなくなる。遠野との漫画も描けなくなる。この作品を、どこかの新人賞に応募することだってできない」のうちの一文をぬき出して答えるのではなく、これがつまり何を意味しているのか、を答える必要がある。――線③の二行後に「彼女は驚嘆の後にはどんな感情を宿すのだろう。一緒に漫画家になるうって約束したじゃない、と怒るだろうか。それとも、ここまで頑張ってきたのに、と悲しむだろうか」とあることから、「一緒に漫画家になることはできない」といった内容になると考えられる。

6 言動の理由を聞かれているので、答えには心情を入れなければならぬ。「新人賞受賞」という喜ばしいことについて「まるで自分のことのように」喜んでくれていて遠野を目の前に――線④のような反応をするのは本来はおかしいということに気づきたい。遠野に「新人賞受賞」の事実を告げた際に「彼女は驚嘆の後にはどんな感情を宿すのだろう。：と怒るだろうか。それとも、：と悲しむだろうか」と考えていたが、それがくつがえされた形である。この時の心情について、帰宅したあとの場面(「漫画を持つ手に力が籠った」以降の場面)で述べられているのでそこをうまくまとめたい。「遠野が祝福してくれるであろうことを予想し、遠野を裏切ったという罪悪感をそれほど強く感じない自分に嫌悪感を抱いていたから。」のような書き方でまとめてもいいだろう。

7 直後の「ねえ! ちょっととちよつと雛ちゃん! :」から、――線⑤は「私」の受賞を知った母の驚きテンションが高まっている反応であることがわかる。これと「対照的な私の受賞に対する母の反応」を聞かれているので、「私」の受賞を知っても驚かずテンションが低い母の様子が書かれているところが答えになるだろうという方針を立ててさがす。

8 ⑥の文から「狡い自分」に対しての「自己嫌悪」であるということ、「：たり、：たりする」という表現から自分を狡いと感じる理由が二つあることをふまえて、「私」の狡さについて書かれているところをさがそう。――線⑥の八行前に「私は私が、狡いと思う」、五行前に「本当に狡い人間だ。自分が嫌になる」とあるので、ここに注目しよう。

9 ⑦の表現から、今まであったものがなくなってしまうこと、なくなってしまうものが「私」にとって大きなものだったことをイメージしたい。失ったのももちろん遠野であるが、遠野が「私」にとつてどういった存在だったのかを答えよう。

10 ⑥の文の「手」は遠野のものであることはわかるだろう。「一切感じられない」という表現から、遠野の手と「私」の手が触れあつた場面に戻るのがいいだろうという見当がつく。また、どのような温かさかという補足がされている一文なので、ここに戻るのが最もいい。